

吹田の三名水を訪ねる

久保正敏
民博文化資源研究センター

六月まで開催の民博の企画展「水の器——手のひらから地球まで」に関連して、吹田市との連携講演会向けに吹田市の水を集める必要が生じたので、晴れた土曜の午後、吹田の名水を訪ねてみた。

民博周辺の名水

日本各地に名水とよばれる湧水がある。一九八五年に環境庁（当時）が発表した「名水百選」が有名だ。河川も含め、保全状況が良く地域住民等による保全活動があることを条件に、全国に公募したなかから選定されたものだが、大阪府で当選しているのは水無瀬の離宮の水、一カ所のみである。ほかにも自薦他薦の名水は各地にあり、個人探訪記サイトや書籍も多い。そこで、民博の地元吹田市ではどうか調べると「吹田三名水」の存在を知った。「垂水の神泉」「佐井の清水」「泉殿宮の霊泉」である。

鎮守の森を目指す

まず、式内大社である垂水神社を訪ねよう。幹線道路からはずれた住宅街の奥、こんもりした森の麓にある閑静な神社である。縁起によれば、神域の丘の上からかつては大坂城天守閣が見えたらしい。天守閣の位置は大化の改新直後の難波長柄豊碓宮に重なり、その真北に垂水神社が設けられたのも、古来、水に恵まれた当地に、雨をもたらず神がまつられたのが起源という。門を入った左手に立つ、志貴皇子作「いははしる垂水の上のさわらびのもえいずる春になりけるかも」の万葉歌碑は、この地で詠まれたとして建てられたもの。ただし神戸市垂水区も、この歌を引き合いに出しているが、垂水とは字のごとく滝を指すので、あちこちに候補地があるのも不思議ではない。石碑の奥に行場があり、背後の鎮守の森から湧き出した水が、龍の形をした「吐水龍」から滝となって落ちていく。蛇口の形を龍にするのは、水のシンボルと見なす東洋に多いが、古代エジプトでは獅子の形にしたという。よく似たことばに「龍吐水」があるが、これは我が国最初の消防ポンプのことで、民博の標本資料にもある。おっと、閑話休題。鎮守の森が禁足地として保護されてきたために、今でも豊かな水が湧き出すのだろう。滝水に礼拝する付近の住民の姿も見かけた。

住宅街の坂道を行く

次に「佐井の清水」に向かう。住宅に囲まれた丘の上にある佐井寺の境内、「佐井の清水」の石碑の脇の吐水龍から、ポタリポタリとこくわずかに水が滴る。住職に何うと、三〇メートルほど離れた水源地からパイプで引いているとのこと。住宅街の坂道を登って行くと、コンクリートで固められた水源があり、鉄柵の境界の奥に「佐井の清水」の石碑が立つ。行基が祈禱して湧き出した水と伝えられるが、その上方にも住宅が建ち並ぶなかで、いつまで清水が湧き出るだろうか。

アサヒビール発祥の地

最後に向かった「泉殿宮」は、アサヒビール吹田工場の隣、府道二四号線に面している。清和天皇貞観のころ、播磨から京都祇園八坂神社に向かう「建速須佐之男大神」の御神輿が立ち寄った際に、おりの干魘の解消を祈ったところ、忽然と水が湧き出したという。一八八九年にはこの霊泉をビール処ミューンヘンに送り、ビール醸造に適した水とお墨付きをえたので、同水系の湧水を原料として大阪麦酒会社吹田村醸造所が建設されたのだ。今でも水商売も含む水関係者に信仰されているが、経済成長期以降、水量は減り続け、一〇年ほど前には涸れてしまっ、今は「遺跡 泉殿霊泉」の石碑と乾いた水場が残るのみ。アサヒビール工場でも一カ所あった井戸を一九六九年に廃止したという。

水質分析によれば

地質図を見ると、三名水はいずれも、淀川・神崎川水系の作る沖積低地と千里丘陵との境界線上にあり、丘陵で涵養された地下水が低地に顔を出す地点であることに納得した。涸れてしまった泉殿霊泉に代わる水はないかと、北隣の片山公園を訪ね、「壁泉」という施設を見つけた。吹田市緑化公園室によれば、一九九〇年の公園再整備の際に、地下二五〇メートルから地下水を汲み上げ、消毒や鉄分除去などの処理をして公園内のせせらぎや池の水として利用しているものだ。

さて、代用も含め三名水を手にしたので、本誌六月号に寄稿いただいた総合地球環境学研究所の中野孝教先生に、水質分析をお願いした。イオン成分や酸素水素安定同位体比を分析した結果、垂水の神泉と佐井の清水は千里丘陵の降水を起源とするようだが、後者はイオン成分が多く窒素濃度が高い点から人間活動の影響が示されていること、壁泉の水は深い地下水の特徴を示し、遠く能勢地方山間部の降水を起源とするらしいことがわかった。また、垂水の神泉が「薩摩のかくれ水」や「霧島の天然水」に似ているなど、イオン成分から見れば、いずれの水にも、日本各地で販売されている名水のなかに似たものがあるという。

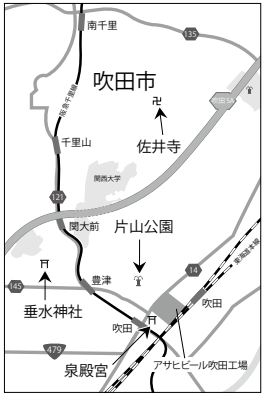
かくて、三名水を訪ね千里丘陵周辺を巡ってはみたものの、千里ニュータウン開発や大阪万博を契機に大きく変わった自然と湧水、地域での信仰や位置づけの変化を、あらためて考える機会となった。



佐井の清水の水源地
片山公園「壁泉」



垂水の神泉



垂水神社



わずかに滴る佐井の清水